

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名（ 城山特別支援学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○子どもたちの笑顔があふれ、豊かな学びができ、生活力が高まる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○多くの人と出会い、たくさんの経験や体験を通して、自分の生き方を選択できる力をつけ、豊かな生き方ができる子ども。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像を念頭に置き、子どもの可能性を信じ、子どもの生き方や考え方を尊重し、子どもを支え、子どもの力を伸ばすことに取り組める教職員。 ○子どもや保護者、同僚との対話を重ね、豊かな関係を築くことができる教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>(児童生徒) 一人ひとりの性格や特徴、障がいを理解し、世界が広がる生き方を応援してほしい。</p> <p>(保護者) 子どもたちが楽しく生き生きと過ごせる環境を作り、社会の一員として生きる力を身につけさせてほしい。</p> <p>(地域社会) 子どもたちが様々な体験や経験を積み、社会の一員として地域で生活できるよう、子どもたちの活動を広げていってほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>【児童生徒、保護者】安全に安心して過ごせる学校であること。学校（教職員）を信頼し様々なことが相談できること。</p> <p>【地域社会】学校の活動内容について十分に知ることができ、活動に協力できる。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>【児童生徒】体調を整え元気に登校してほしい。自分の夢や将来像に向かってチャレンジする意欲を持ってほしい。</p> <p>【保護者】教職員との信頼関係のもと、子どもたちの生き方を応援してほしい。</p> <p>【地域社会】ともに子どもたちを育むための一員となってほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・学部内での教員間の情報交換や、保護者と教員のコミュニケーションについては課題が多く感じられる。保護者との関係づくりについては教員の力量が問われるのでしっかり取り組みを進める必要がある。 ・校内組織再編による各分掌・学部間での協力体制を構築し、業務の効率化・平準化を目指すことで働きやすい職場環境作りを目指す。 ・感染防止対策については評価できるが、なお一層の危機管理意識を継続する必要がある。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のよりよく生きようとする力を育むため、教職員が対話を通して効果的に授業改善を進めていくことが必要。 ・障がいが重度重複化・多様化の傾向にあるため、特に自立活動について授業力や指導力を向上させることが必要。 ・教科横断的な教育活動において、個々の教科のねらいについての的確な評価をおこない、成果の積み上げが着実なものとなるよう、教育課程を再検討することが必要。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒にとってより安全で安心な学校となるよう、医療的ケアや危機対応時の体制について、一人ひとりの教職員が最新の知見と十分な認識及び的確な対応力を身につけることが必要。 ・学部や分掌を超えた連携や、デスクネットの更なる活用、ペーパーレス化を進めることにより業務を効率化し、業務の偏りを解消して時間外労働時間を縮減することが必要。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、福祉、労働等にかかる諸機関との連携を強化し、児童生徒の多様なニーズに合致した在学中の支援から進路指導に至るまでをとおして、児童生徒の自立と社会参加を促進する。 ・交流及び共同学習の取組を通して、児童生徒が地域で生き生きと生活できる「人権尊重の地域づくり」をめざす。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・「信頼される学校であるための行動計画 2021」に基づき 人権を重んじた真摯な態度で教育活動に取り組むとともに、内外の関係機関を含めた情報連携を密に行い、適切なリスクマネジメントのできる組織となることを目指す。 ・安全で安心な教育環境の整備を進め、感染症、医療的クライシスや自然災害への対応を進める。 ・組織再編の成果を検証するとともに、効率的な業務の進め方について絶えず検討し、働きやすい学校となるよう改善を進める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力・指導力の向上	<p>* 小学部</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習グループを中心に自立活動の視点で児童の実態把握を行い、教科指導に活かした授業づくりと授業改善に取り組む。 ・GIGA スクール ICT に係わる情報交換、意見交換を行う。 ・教育課程や授業形態の反省と見直しをすることで、カリキュラムマネジメントを進める。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間で連携した授業づくり、授業改善の参加：80%以上 ・GIGA スクールや ICT に関わる情報交換、意見交換の回数：3回以上 ・2学期末実施予定のアンケートにおいて、教育課程や授業形態の見直しに関する意見提出：70%以上 <p>* 中学部</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や状況に基づき、特に障がいや重度の生徒の「主体的で対話的な深い学び」について考え実践する。 ・教職員間における対話を重視し、効果的に授業づくりや授業改善を進める。 ・学部全体で幅広く生徒を理解するため実態把握を行う。また、つけたい力を明確にした上で、国語・数学等の教科について授業づくりと授業改善を行う。 ・教育課程の反省と来年度の 学習プランを設定する。 	(年度末および適宜記載)	

【成果指標】

- ・クラスを超えて教職員同士が連携し、授業づくりと授業改善に取り組めたと感じる教職員の割合：70%以上
- ・教育課程と教科に関わる研修において、本年度の反省に基づいた次年度の学習計画作成：100%以上

*** 高等部**

【活動指標】

- ・生徒の実態を的確に把握し、卒業後の生活をイメージしながらより具体的な目標を設定するとともに、その達成に向けて授業内容や指導の在り方を検討する。
- ・生徒の実態にあった授業を考え、各教育課程で内容の検討を行う。
- ・自立活動について実態把握シートを作成・検討し活用する。
- ・新指導要領をふまえた教育課程を検討する。

【成果指標】

- ・授業検討・改善のための授業検討：学期1回以上

*** 教育課程（学習支援部・教務班）**

【活動指標】

- ・小、中、高等部の国語、算数及び数学における授業の在り方を検証して適切な教育課程に反映させる。

【成果指標】

- ・各学部での取り組みを教務班で共有し、協議を重ね、適切な教育課程を策定する。

*** 自立活動（キャリア支援部・自立活動班）**

【活動指標】

- ・「自立活動」と「キャリア教育」に関する指導力を高めるため、校内外の専門資格を有する者等が講師を務める校内研修を実施するとともに、学部を越えた支援体制を整備する。

【成果指標】

- ・研修会の開催：年10回以上
- ・自立活動やキャリア教育の指導力が向上したと回答した教員の割合：70%以上

*** 人権教育推進：交流教育（小中学部）**

【活動指標】

- ・地域での生活を豊かにしていくことをめざし、感染症防止

	<p>対策を講じた上で、居住地校交流及び学校間交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のねらいに対応した交流を進めることと感染防止対策のため動画や共同制作などを通じた間接的な交流に取り組む。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両校でねらいを共有し、取組に反映できた交流の割合：70%以上 <p>* 校内外の支援推進（キャリア支援部・支援班、進路班）</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路実現に向け、定期的に進路懇談会・支援会議を開催し、保護者と関係機関との協力体制を構築する。 ・事業所の進路開拓を行い、そこで得た情報を事業所一覧や通信等を通じて職員や保護者に適宜情報発信を行う。 ・各学部と連携をとり、個々のキャリアプログラムに準じた支援を行う。 ・地域の特別支援学級の児童生徒に対する専門的な支援を実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路懇談会、支援会議の実施：年1回以上 ・進路通信「コラボ」の発行：年6回以上 ・事業所一覧の活用について職員向け研修会の実施：年1回以上 ・各部との連携会議の実施：年3回以上実施 ・地域の教職員に対してのセンター的機能の説明会の実施：年2回以上 		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上 情報提供	<p>* 総務</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校 Web ページの更新により、情報発信と掲載内容の充実を図り、地域との連携および協働性を高める。 	(年度末および適宜記載)	

- ・保護者や地域等への情報発信を進める。
- ・学校経営品質を進めることで、職員の同僚性や協働性の向上を図る。

【成果指標】

- ・学校 HP の更新：年 10 回以上
- ・学校経営品質に係る校内研修：年 1 回以上
- ・職員満足度アンケートの職員間の信頼および関係性の変化に関わる項目：満足度 70%以上

*** 教職員の研修（学習支援部・研修班）**

【活動指標】

- ・授業力向上のため学部研修で授業づくり、授業改善に取り組む。
- ・授業づくりや授業改善において対話の場を設定し、スムーズなコミュニケーションと対話力の向上を図る。
- ・校内研修計画を立案し、他の部署との連携を図り、研修のマネジメントを行う。

【成果指標】

- ・対話を中心とした授業づくりと授業者支援：各学部 5 回以上
- ・自分の意見が言いやすくなり、授業に関わる話がしやすくなったと感じた教員の割合：70%以上
- ・他の部署と連携した全体研修の計画の調整：年 3 回以上

*** 生活指導（生活支援部・生徒指導班）**

【活動指標】

- ・人権意識の向上といじめ防止について教員の意識の定着を図る。
- ・啓発のために通信を発行する。
- ・いじめアンケートを実施する。

【成果指標】

- ・保護者向け通信の発行：年 2 回（4 月、11 月）
- ・教職員向け通信の発行：年 5 回（5 月、6 月、9 月、1 月、3 月）
- ・いじめアンケートの回収率：100%

*** 保健安全（生活支援部・医ケア班、保健安全班）**

【活動指標】

- ・危機管理に対する意識を高め、事故未然防止に努める。
- ・緊急対応マニュアルの見直し、緊急対応訓練を実施する。

【成果指標】

- ・緊急対応訓練の実施：年 10 回以上

*** 寄宿舍**

【活動指標】

- ・寄宿舍整備に係る検討会議において、課題の共有と方策を検討する。
- ・寄宿舍における課題等を学校全体で共有するとともに、学校運営に関わる検討を進める。
- ・他校の寄宿舍指導員と情報交換を図る。

【成果指標】

- ・舎務委員会における「舎監の宿泊業務」等の協議：年2回以上
- ・他2校を含めた指導員間の情報交換の設定：年2回以上

*** 情報管理と情報共有（学習支援部・情報班）**

【活動指標】

- ・個人情報管理チェックシートを各学期に実施する。
- ・学部会・分掌会等の電子会議室を開設する。

【成果指標】

- ・個人情報管理チェックシートの回収：各学期 100%
- ・電子会議室へのトピックまたはコメントの投稿：全職員 1 回以上

*** 効率的な会議等の運営**

【活動指標】

- ・効率的な会議を進め時間内に終了させる。
- ・会議資料について、事前のデータ共有化によるペーパーレス化を推進する。

【成果指標】

- ・放課後に行う会議の時間内の終了：100%
- ・ペーパーレスによる会議の実施：各会議 1 回以上

*** 働き方改革を踏まえた効率的な業務の推進**

【活動指標】

- ・時間外勤務時間の減少及び計画的な休暇取得
- ・リフレッシュデー（毎月最終金曜）の実施
- ・学校閉校日の実施
- ・時間外労働時間、月 45 時間または年 360 時間を超える職員：0 人

【成果指標】

- ・休暇の取得：一人年 20 日以上
- ・リフレッシュデーにおける定時退校者率：80%以上

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校閉校日の実施：年4回以上 ・一人あたりの月平均時間外労働時間：30時間以下 		
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)